

奈良新聞 創刊記念企画

Mission ~危機のとき 求められる創造と守るべき使命~

皮革製品

JUNKEI-GLOVE 吉田 貴夫・村

三宅町で創業
一創業時代のことをつけ
がいたいと思います。
吉田 弊社は祖父の吉田
順計が1946年、吉田順
計商店として設立しまし
た。当時は野球グラブだけ
では経営的にやつていけな
いので、カバン、ジャケッ
トなど皮革製品を手掛けて
いました。

三宅町は皮革工業が盛り
な地域で多くの同業者がお
りましたが、弊社は技術が
優れていたので、南極越冬
隊のジャケットを製造した
りしました。

JUNKEI—GLOVEは、三
ツ・ミットの製造・開発を営んでい
る歴史と大きく重なる。同社は型を
し求め、最高のプレーにつながる最
を続けていく」ことを理念としていろ
ポーツ用品メーカーの下請けから独
UNKEI—GLOVE」を誕生さ
のモノづくりに挑戦するJUNKIE
吉田貴夫社長にお話をうかがつた。

—野球グラブに特化して
いった経緯は。
大手スポーツ用品の下請けを

大手アーチホール
用品の下請けを

野球グラブの製造・開発

吉田 アメリカでは古くから野球が盛んでしたが、そこで使用されるグラブは、主にカリブ海沿岸で製造されていました。それが日本からの輸入にシフトしてきて、1960年代には地域全体が活性化しました。弊社ではだいたい年間7万個ぐらいのグラブが、アメリカに輸出されていた

使っていきます。やがて10年代になるとグラブは韓国やフィリピンにトしていくのですが、それを含めて価格帯の高いカーブのグループが生きて生産を続けてきたのです。球グラブの製造は、輸入社や大手スポーツ用品メーカーの下請けが中心で

使いやすい製品商社とギヤップ
——社長ご自身の御社とのかかわりは。
吉田 父の吉田誠克は1990年に社長に就任しました。私は99年に入社し、グラブ製造に取り組むようになりました。

最高のモノづくり 独自ブランド、神髄に迫る

す アメリカへの輸出にむけ
ちらん、市場が拡大してき
た日本の野球界についてい
も、流通ルートを考えると
これら大手企業の意向に従
わざるを得ません。地場産
業のメーカーは、硬式野球
グラブを生産するメーカー
と軟式野球グラブやミット
を生産するメーカーとに分
化していきました。

この間大手スホーツ用品メーカーが型の修正を要求してくるなど、難しい課題がありました。グラブ製造の難しさは、立体の型作りにあります。ここが平面のミットと違うところです。製造にあたってはていねいに縫う、きれいに裁断するなどの技術が要求されるのですが、とりわけ難しいのは、グラブを使う野球選手の使いやすさを考えことです。背面にゆとりを

持たせ、内径と外径をそろえ、ポケットを深くして捕球しやすく作ることが重要です。そのような型をイメージしながら縫製し、紐通しまで計算したグラブ作りをしているのです。ところが、それを追求していくと、商社が要求してくる仕様とは合致しない部分が出てきます。これでは自分の思つているグラブが作れないを考えるようになつていきました。



「自然に」を工夫
独自ブランドである
UNKEI-GLOVE
誕生についてうかがいた
と思います。

祖父の技術進化

置がたいへん重要で、指頂点を同時に通過するときに、また革の伸びが自然状態で指が伸びるようにねじれが生じない自然グラブになります。

課題は流通ですが、オリジナル商品として直接小売店に出しています。取引店は現在、北海道から宮崎まで全国40店舗ぐらいです。いいと感じていたらお店にしていく方針

A man with dark hair, wearing a white long-sleeved lab coat over a black shirt, is focused on working on a complex electronic device or circuit board. He is seated at a workbench in a workshop setting. The workbench is cluttered with various tools and components, including a pair of orange-handled pliers, a pair of grey-handled snips, and a wooden mallet. In the background, there are shelves filled with plastic storage bins containing parts and equipment. A large blue fan is visible on the left side of the frame.

吉田　いま言つたように、グラブ製造の技術は全體がそろつていないと製品としてモノになりません。そこで順計の代から受け継ぎ進化してきた技術をベースにして、独自ブランドを開発しようと思い立ちました。技術的には、型作りにおいて完全な立体作りで、吸いつくように乗るグラブ、力が指先まで伝わりやすいグラブを作りました。芯に指がまっすぐ垂直にするようにするところが秘訣です。その結果、捕球しやすく、またグラブが軽く感じられるのです。型は1ミ

ー一つ手作りでグラブを作る吉田社長

吉田　JUNKEI　LOVEというブランド想は2008年ごろに始まり、15年から本格的に活躍するようになりました。

ポート用品業界では、有名選手が使っているグラブやバットなどが一時の流れを形成します。しかし私は

今後も作り続けたいクラブです。

A photograph of a large, well-organized storage room for baseball gloves. The room features wooden paneling on the walls and a polished wooden floor. Numerous white metal shelving units are arranged in rows, each unit having four shelves filled with baseball gloves. The gloves are of various colors, including tan, black, yellow, red, and blue. In the foreground, there is a table covered with an orange cloth, and a single blue folding chair is positioned near it. The lighting is provided by long fluorescent light fixtures mounted on the ceiling.